

令和5年度苓北町立都呂々小学校校内研修



1 研究主題

自ら学び、思いや考えを表現する力を伸ばす都呂々っ子を目指して
～「自分たちでできる・わかる」を感じられる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日的な課題から

情報化やグローバル化といった社会的変化が、急激に進展し、社会の在り方が劇的に変わり、まさに先を見通すことの困難な時代が到来しつつある。これからの時代を生き抜いていく子どもたちは、そのような変化に対して、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が必要となってくるだろう。

(2) 学習指導要領から

学習指導要領では社会の中で生きてはたらく「生きる力」が重要だと強く述べられている。この「生きる力」では、「確かな学力（基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力）」、「豊かな人間性（自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性）」と「健康・体力（たくましく生きるための健康や体力）」をバランスよく身につけさせることが大切であると述べている。

このように学習指導要領では、変化の激しいこれからの社会に対応するため、自らの学びを調整し、学び方を身につけ、学びを続ける態度を育成することを重視している。しかし、上記(1)で述べたように、児童の物事や課題に対する主体性、他人とのコミュニケーション能力は十分とは言えない現況がある。社会の中で生きてはたらく「生きる力」を育てる第一歩として、小学校段階から物事に主体的にかかわろうとする態度の育成が必要だと考える。

(3) 本校の教育目標から

本校の教育目標は「都呂々を愛し、互いに思い合い、自ら問い続け、たくましい都呂々っ子の育成」である。教育目標を具現化した児童の姿のスローガンとして、「みんなで わくわく どん どん」を挙げている。身の回りの事象や社会事象の課題に気付き、その課題を自分のこととして捉え、積極的に関わり、友達と一緒に解決していこうと表現することを目指している。

(4) 児童及び学校の実態から

本校は全児童数が37人程度の学校である。そのため、1・2年は単式の学習指導を行っているが、3・4年、5・6年は複式の学習指導を行っている。令和7年度の完全複式（予定）まで、3～6年生の児童が複式の学習指導に慣れ、複式の学習指導の中で十分に学力を付けること、複式の学習指導を見据えた1～2年生への指導や心構えづくりを行っていくことが必要である。

表1は令和4年度の12月に実施した県学力調査の学年別結果であり、数字は達成率を示す。学年ごとの平均で児童の学力を考察することは、本校では適切とは言えないが、傾向としては以下のようなことが分かった。

全体的に見ると目標値より下回っている領域・内容は少なく、教科による差も大きくはない。**国語の「話す・聞く」が他の領域と比べてやや低く、課題があると考えられる。**また、個人差もあることから、今後の授業改善を図るとともに、日常的な指導や個に応じた家庭学習習慣の定着の指導などの手立てが必要だと考える。

表1 県学力調査結果 (R4, 12月実施)

<< 国語 >> n=28 (目標値より5上回る○5下回る▽ 10上回る◎10下回る▼)

	基礎	活用	言葉	情報の扱い方	話す聞く	書く	読む
本校平均値	87.0	75.6	90.3	73.3	66.9	87.0	80.0
目標値の平均	78.0	61.6	80.0	56.3	69.3	66.3	69.0
学年と目標値の比較	◎3学年 ○1学年	◎4学年 ▼1学年	◎4学年	◎3学年 ○1学年	◎2学年 ▽1▼1	◎4学年	◎4学年 ▼1学年

<< 算数 >> n=28 (目標値より5上回る○5下回る▽ 10上回る◎10下回る▼)

	基礎	活用	数と計算	図形	測定	変化と関係	データ活用
本校平均値	86.0	59.4	84.3	77.7	69.1	68.2	53.0
目標値の平均	74.5	54.0	70.9	68.7	67.4	59.4	59.0
学年と目標値の比較 (／は該当学年の数)	◎3学年 ○2学年	◎4学年 ○1学年	◎4学年 ○1学年	◎2学年 ／4	◎1学年 ○1学年 ／3	◎2学年 ／2	0 ／2

また、児童の実態について「基礎的・基本的学力と言える、読み・書き・計算の学力の個人差が大きい」ことや「自分の考えを表現する力が乏しい」ことが挙げられる。また、教師の思いとして、「わからないことを解決しようとする力」、「より深く考えよう、学び合おうとする力」をさらに身につけさせたいということを持っている。

以上から、基礎的・基本的な学力の定着を図りながら、児童の学習意欲を高め、自分の考えや思いを表現でき、友達と交流しながら学びを深められるような授業づくりが必要であると考える。